

| | | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|---|--------------|-------------|-----------------|------------|----------------|----|----------|-----|
| 科目ナンバリング | | P-PUB01 8N006 SJ90 | | | | | | | | | |
| 授業科目名 <英訳> | | 臨床遺伝学演習 (GC限定) Clinical Genetics, Exercise | | | | 担当者所属・ 職名・氏名 | | 医学研究科 教授 小杉 眞司 | | | |
| 配当 学年 | 専門職 | 単位数 | 1 | 開講年度・ 開講期 | 2021・ 後期 | 曜時限 | 水5・6:開講日注意 | 授業 形態 | 演習 | 使用 言語 | 日本語 |
| 【授業の概要・目的】 | | | | | | | | | | | |
| <p>【基本情報】別称：「遺伝カウンセリングロールプレイ演習」 授業日時：後期水曜5/6限（隔週を原則とする。例外予定にご注意ください） 教室：G棟3階演習室、レベル：応用 担当者：小杉眞司・和田敬仁・中島健・山田崇弘・澤井英明・川崎秀徳・吉田晶子・鳥嶋雅子・村上裕美・秋山奈々・稲葉慧・勝元さえこ・岡田千穂・佐藤智佳・本田明夏</p> <p>【コースの概要】・演習開始2週間前には、オリエンテーションを行う。 ・クライアント役の1回はM1が担当する。 ・基本設定は担当教員が最低2週間前に関係者全員に通知する（ロールプレイのねらいを必ず明示すること）。2場面を設定する。実際の遺伝カウンセリングは、臨床遺伝専門医と認定遺伝カウンセラーで役割分担しながら、チーム医療として行うが、ロールプレイの特性として一人で実施する必要があるため、遺伝学的検査の結果開示など、臨床遺伝専門医が実際には主に行っていることについても、「遺伝カウンセリング担当者」としてロールプレイでは行う。これは遺伝カウンセラーとして貴重な経験になるだけでなく、臨床遺伝専門医の立場を理解するのにも役立つ。また、頻度の高い疾患については認定遺伝カウンセラーとして十分な知識を有しておくことは、クライアントから再度質問された場合などにも対応できる力となる。 ・検討過程で基本設定に変更がある場合は、関係者全員に事前に必ず知らせる。 ・遺伝カウンセリング担当者（M1）・CGCメンター・担当教員での事前打合せも実施する。 ・前日までに遺伝カウンセリング担当者（M1）はフィードバックシートおよび遺伝カウンセリングで使用する資料を配布する。 ・当日、16:30-16:45にCL役、担当教員、CL設定教員が副室もしくはウェブで内容確認を行う。 ・16:45-18:50の予定でロールプレイを2場面行う。 ・フィードバックは、遺伝カウンセリング担当者（M1）、CL役、担当教員、CGCメンターの順に行う。その他の参加者はフィードバックシートで行う。 ・18:50-(最長19:45) 遺伝カウンセリング担当者（M1）、CGCメンター、担当教員での当日の振り返りを行う ・後日、遺伝カウンセリング担当者（M1）とCGCメンターで一部の逐語録やフィードバックシートを用いた振り返りを行い、1週間後を目安に担当教員へレポートを提出する。</p> | | | | | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | | | | | |
| 遺伝カウンセラーとしての実践的な技術を身に付け、現場での実践的な対応能力を獲得する。臨床遺伝学の知識と遺伝カウンセリングの基本的技術を習得する。 | | | | | | | | | | | |
| 【授業計画と内容】 | | | | | | | | | | | |
| <p>【第0回】9月1日5限<全員>「ロールプレイの行い方とオリエンテーション、遺伝カウンセリング実習」ロールプレイの目的、方法と意義について。遺伝カウンセリング実習についてのオリエンテーション</p> <p>【第1/2回】9月22日<和田/川崎>「Marfan症候群」比較的頻度が高く、生命予後に関わる合併症をきたしうるマルファン症候群に関して、疾患概要・サイベイランスの必要性・遺伝学的検査の意義を説明でき、at risk血縁者の受診につなげることを目指す。</p> | | | | | | | | | | | |
| 臨床遺伝学演習 (GC限定) (2)へ続く | | | | | | | | | | | |

臨床遺伝学演習（GC限定）(2)

【第3/4回】10月6日<山田>「出生前診断」出生前遺伝学的検査にかかわる遺伝カウンセリングにおいて、疾患の自然史を含めた情報提供や適切な遺伝学的評価に基づいた再発率の提供ができることを目指す。

【第5/6回】10月27日<中島>「Lynch症候群」家系内に40～50歳代で大腸癌で死亡した複数の人があり、遺伝性の可能性を心配。遺伝学的検査の説明と実施、遺伝子変異があった場合の対応。

【第7/8回】11月17日<和田>「ミトコンドリア病」MELASと診断された小児のケースを通して、母系遺伝、表現の多様性、確定できない情報の伝え方等のミトコンドリア病における遺伝カウンセリングを学ぶ。

【第9/10回】12月1日<山田/川崎>「ターナー症候群」ターナー症候群と診断された女兒のケースを通して、染色体数的異常の理解を深めるとともに、クライアントの心情に配慮しながら、疾患概要ならびに今後の対応に関して情報提供できることを目指す。

【第11/12回】12月15日<中島>「遺伝性乳がん・卵巣がん」乳がん患者が多数いる家系での遺伝性乳がんのリスクの評価および遺伝学的検査の適応。

【第13/14回】1月19日<澤井/山田>「習慣流産」習慣流産症例において、原因の産婦人科的評価に加えて遺伝学的検査に基づく評価と次回妊娠に向けて着床前診断も含めた提案に関わる遺伝カウンセリングを学ぶ。

【第15/16回】2月9日<和田>「Duchenne型筋ジストロフィー」DMDと診断された孤発例のケースを通して、遺伝学的診断の進め方、X連鎖性疾患における母親あるいは女性同胞の保因者診断の進め方を学ぶ

参加者：担当、関係全教員、遺伝カウンセリング担当者院生（M1）、オブザーバ（M1、M2、博士院生）、CGCメンター

記録：オブザーバーのM1（ビデオ撮影およびファイルをサーバに保存：復習用）

【履修要件】

遺伝カウンセラーコース1回生限定必修科目（事前確定科目）

【成績評価の方法・観点】

演習における積極性、実践的能力、出席、レポート等を総合的に評価する

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

【授業外学修（予習・復習）等】

適宜指示する

臨床遺伝学演習 (GC限定) (3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。